



# 瀬戸小だより

ふれ合う 認め合う 共に学ぶ 笑顔あふれる瀬戸ヶ谷小学校

mail:y3setoga@edu.city.yokohama.jp <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/setogaya/>

学校だより 3月号  
令和3年2月26日  
横浜市立瀬戸ヶ谷小学校  
校長 松永 淳子  
TEL 713-8336 FAX 713-9749

瀬戸ヶ谷小学校

検索 

## 新しい一歩に向かうとき

校長 松永 淳子

校庭の花壇の菜の花が、春の優しい日差しに包まれています。12月ごろから咲き始め、3か月もの間私たちの目を楽しませてくれています。最初は茎も短く小さかったのですが、2月の中頃より急に茎が伸び、花の存在が大きく感じられるようになりました。子どもたちも一年前と比べると背が伸び、たくましく成長しました。

さて、令和2年度を振り返ると、だれもが経験したことのない生活の連続でした。「新しい生活様式」を理解し、感染防止や拡大に気を付けながら学校生活を過ごす日々でした。子どもたちにとっては、できないこと我慢しなければならないことでストレスを感じる場面が多くあったことでしょうか。それでも、いつも前を向いて黙々と頑張る姿に、私たち教職員の方が勇気づけられ希望を持つことが出来ました。また、子どもたちの発想の豊かさには驚かされることの連続でした。「このようにしなければならない。」と固定観念で物事を見つめていたのは私たち大人の方でした。今まで当たり前だと思っていたこと、できていたことが出来なくなったことを憂いている場合ではないと考えさせられた一年でした。

学校ではICT機器を活用する場面が増えました。子どもたちは担任やICT支援員と共にパソコンを使いながら授業を進めています。クラブ活動では、4年生から6年生の子どもたちがパソコンを使いながら様々なことにチャレンジしていました。今年一年間、各ご家庭にはご協力いただき、学校と家庭を繋ぐ手段としても使用できるよう準備を進めてまいりました。来年度は、更にその勢いが進みそうです。そのために校内のネット環境を整備しています。これからは子どもたちが、学習の時、ipadやパソコンなどを活用しながら学習を進めていくことでしょうか。

また、「リモート」を活用することの便利さを感じると共に、人と人がふれあうことの大切さを改めて感じさせてくれた一年でもありました。「手あて」という言葉があります。これは、体調の悪いところやけがをしたところを処置するときに使われる言葉ですが、人の手の温もりが心まで癒してくれる効果があるということを知ることがあります。子どもたちは臨時休校が終わり学校で友達と顔を合わせた時、一緒に給食を食べることができるようになった時、様々な制約があるにも関わらず、とても嬉しそうでした。友達とのふれあいは温もりを与えてくれました。そして、人と人が共に同じ場所で過ごすことができるということは、安心感や活力を見出すことができるのだと感じました。

そんな令和2年度も終わろうとしています。新しい一歩に向かう春となります。体育館の改修工事も無事終わり、真新しい体育館で卒業式が挙行できます。6年生は小学校生活最後の1年間、思うような活動の場面に恵まれず葛藤の日々だったことでしょうか。それでも最高学年として、いつでも手本となる行動を示してくれました。瀬戸ヶ谷小学校の卒業生として胸を張って巣立ち、中学校で充実した生活を過ごしていかれることでしょうか。1年生から5年生はそれぞれ進級します。この一年間の経験を礎に、更なる高みを目指してほしいと思います。それぞれの新しい一歩に夢や希望がもてるよう、残りの日々を大切にしながら学校生活を過ごしていけるよう教職員一同努めてまいります。保護者や地域の皆様には、今年度の様々な教育活動にご理解ご協力をいただき感謝申し上げます。来年度も子どもたちのために、どうぞよろしくお願い申し上げます。